

津津名も移されての後なり又住吉に近き地に西生郡に書紀雄略卷に十四年春正月身

狹村主青等共吳國使將吳所獻手末才伎漢織吳織及衣縫兄媛弟媛等泊於住吉津是月爲吳客

道通磯齒津路名吳坂是を菟原郡なるに非ず今の住吉の地なりとする故は倭京へ入料に磯

とよみ合せたる千沼齒津路を開かれたる程近きを以てなり磯齒津は萬葉六の歌に和泉國の千沼

村と云あり河内の堺なり昔は河内に屬て萬葉に河内國伎人郷とある處なるを久禮を詠て

喜連とは云なり孝謙紀三代實錄などに倭人隄とあるも此處のことなりさて住吉より喜連

坂は此なるべし今も住吉より河内へ通りたる此道を古に泉國人の通し道なりと云傳

へたり喜連村に吳羽明神と云社などもあるなり難波津にはことさらに此住吉津に泊べく豫て

吳國使は異國の中にも希見しき客なる故に泊すしておきて賜へるなるべし凡て異國の事は此大神吉の所知看すが故なり萬葉十九に贈入唐

使長歌に忍照難波爾久太里住吉乃三津爾船能利直渡云々略註是又遣唐使なるを以てこと

さらに此津より發船するなるべし

〔日本書紀雄略十四〕十四年正月戊寅身狹村主青等共吳國使將吳所獻手末才伎漢織吳織及衣縫兄媛

弟媛等泊於住吉津

〔萬葉集十九〕天平五年贈入唐使歌一首并短歌未詳

虛見都山跡乃國青丹與之平城京師由忍照難波爾久太里住吉乃三津爾船能利直渡日入國爾所

遣和我勢能君乎懸麻久乃由由志恐伎墨吉乃吾大神船乃倍爾宇之波伎座船騰毛爾御立座而

佐之與良牟磯乃崎々許藝波底牟泊々爾荒風浪爾安波世受平久率而可敞里麻世毛等能國家爾

反歌一首

奧浪邊波莫越君之舶許藝可敞里來而津爾泊麻泥

〔古事記傳三十五〕三津は住吉津を美稱て御津と云るなり難波の三津大伴の三津など云る處

には非ず